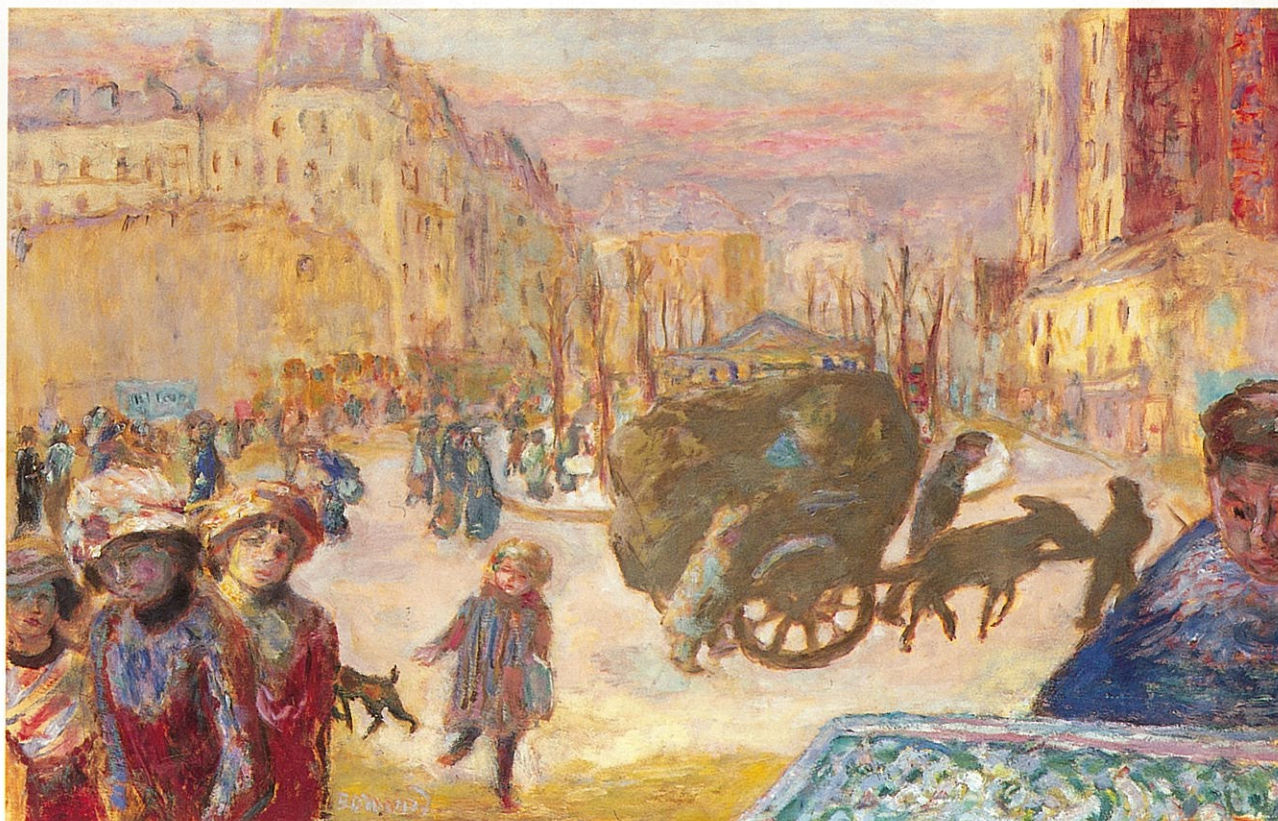




佐伯祐三「郵便配達夫」1928年（大阪市蔵）



ボナール「パリの朝」1911年（エルミタージュ美術館蔵）

大阪市制100周年・  
近代美術館構想記念

# 佐伯祐三と エコール・ド・パリの仲間たち展

1989年8月12日(土)——9月24日(日) 月曜日休館  
午前9時30分—午後5時(入館は4時30分まで)

主催=大阪市・大阪市教育委員会  
後援=外務省・文化庁・フランス大使館・ソ連大使館・  
**NHK** 大阪放送局  
協賛=財大阪21世紀協会・アサヒビール(株)  
協力=財笠間日動美術館

観覧料金=一般1,000円(800円) 大学・高校生700円(500円)  
中学・小学生400円(300円)  
カッコ内は前売・20名以上の団体割引料金。

大阪市立美術館 天王寺公園内  
(地下鉄天王寺駅下車)



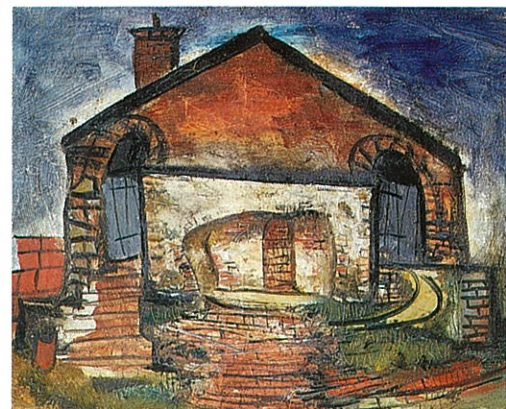
佐伯祐三「人形」1925年頃（大阪市蔵）



佐伯祐三「レストラン(オテル・デュ・マルジュ)」1927年（大阪市蔵）



佐伯祐三「靴屋」1927年頃（大阪市蔵）



佐伯祐三「煉瓦焼場」1928年（大阪市蔵）

大阪市が誕生して100年、そして、関西圏の要となるにふさわしい近代美術館がつけられることになりました。これを記念して、〈佐伯祐三とエコール・ド・パリの仲間たち展〉を開催いたします。

佐伯は大阪に生まれ、1924年パリに渡り、再渡仏の28年、30歳の若さでパリに客死した異才です。市所蔵の40点に加え、代表作あわせて60余点で、短くも激しく燃焼した壮烈な魂の詩の全容を見ていただきたいと思ひます。

奇しくも同時代のパリは、エコール・ド・パリ(パリ派)と後世に称された世界中の画家たちが、花のモンマルトル、モンパル

ナスで制作をつづけていました。モディリアーニ、ユトリロ、スーチン、ローランサン、パスキン、キスリング、シャガール、フジタそれに、その周辺にはボナール、ヴェイヤー、ヴラマンク、ピカソ、ブラックらが匂うが如くに個性の花を咲かせていました。

今回は、パリの市立美術館、レニングラードのエルミタージュ美術館、それにニューヨークの近代美術館、シカゴ・インスティテュート、フィラデルフィア美術館など世界の美術館、コレクターからの代表作60余点で構成し、あわせて20世紀はじめから第二次世界大戦に至る時代の美術思潮をごらんになって

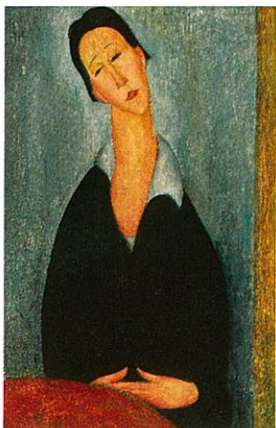
いただきたいと存じます。

エコール・ド・パリ、異国の画家たちによって貧しくも民族的資質ゆたかに、そして、独自の哀愁的表現にご期待ください。

なお、今回新たに大阪市が所蔵したモディリアーニ二作「髪をほどいた横たわる裸婦」を特別展示いたします。

## 記念講演会 「佐伯祐三とエコール・ド・パリ」 乾 由明氏(京都大学教授)

8月26日(土)午後1時30分 当館美術ホールにて



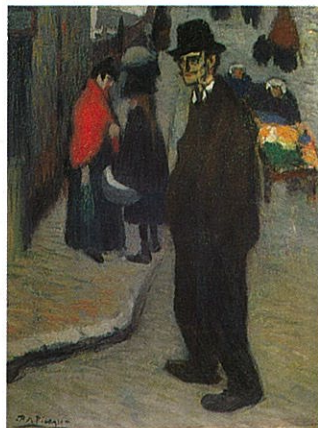
モディリアーニ「ポーランドの婦人」1918年（フィラデルフィア美術館蔵）



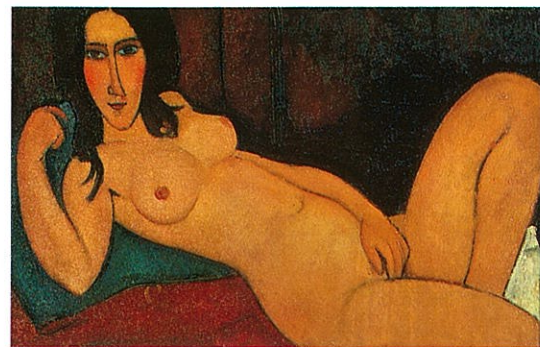
パスキン「座るエルミーヌ・ダビド」1918-19年



ヴァン・ドンゲン「リュシィとそのパートナー」1907年（エルミタージュ美術館蔵）



ピカソ「通りの光景」1901年



モディリアーニ「髪をほどいた横たわる裸婦」1917年（大阪市蔵）

電話〇六七七(四八七四)  
〒900 大阪市天王寺区茶臼山町一八二  
大阪市立美術館